

日本結核病学会北陸支部学会

—— 第87回総会演説抄録 ——

平成27年11月21・22日 於 富山国際会議場（富山市）

（第76回日本呼吸器学会
第61回日本呼吸器内視鏡学会 と合同開催
第46回日本サルコイドーシス学会）

集会長 林 龍二（富山大学医学部第一内科）

—— 一般演題 ——

1. 医療従事者に対するインターフェロン γ 遊離試験と低線量CT検査を用いた結核スクリーニングの実施 °西 耕一・湯浅瑞希・寺田七郎・岡崎彰仁・西辻 雅（石川県立中央病呼吸器内）松井 謙・片桐亜矢子・南麻紀子・小林 健（同放射線診断）

医療従事者に対してインターフェロン γ 遊離試験（IGRA）を実施した。陽性者に対しては低線量CT（LDCT）を実施した。新規職員120名の中陽性は2名，陰性は118名であった。陽性者2名にLDCTを行うと2名とも異常を認めなかった。ハイリスク職員212名中IGRA陽性は8名，陰性は202名，判定保留は1名，判定不可は1名であった。陽性者にLDCTを行うと2名に異常を認め、1

名は肺結核と診断された。

2. 気管支拡張症と鑑別に苦慮した劇症型肺結核の1例 °岩田安弘（済生会高岡病内）林 龍二（富山大学第一内）

症例は83歳男性。高熱，食欲不振，体重減少を主訴に入院した。CTは中・下葉を中心に，広範囲の嚢胞状気管支拡張と気管支肺炎像を呈していた。抗菌薬に全く効果なく，急速に悪化。第6病日に湿性咳嗽を認め，喀痰より結核菌を検出。抗結核薬が開始されたが3週間後に死亡した。血液疾患などの免疫不全が示唆された。若干の文献的考察を加え，報告する。